

提出 No	内容（全文）	回答検討用意見概要	意見 番号	回答案
1	<p>「白馬村太陽光発電設備の設置管理等に関する要綱」の規制内容を強化する条例案について規制強化に賛成いたします。</p> <p>私は、日本国内における野立て式太陽光発電所の設置推進には反対の考えです。 主な理由は以下の3つです。 1、電力供給のうち太陽光発電の占める割合が増えると、電力の安定供給がしにくくなり停電のリスクや電気料金のさらなる高騰を招くため。 2、野立て式太陽光発電設備の設置及び運営で、環境に与える影響を総合的に分析すると、太陽光発電がCO2の削減にならないというデータもあるため。 3、太陽光パネルの世界シェアは中国企業がほぼ独占しており、ウイグルでの強制労働に関与したとして、アメリカが輸入を禁止しているメーカーの原料を使用して製造された中国製の太陽光パネルを使用して事業を行う可能性が高いため。</p>	<p>「白馬村太陽光発電設備の設置管理等に関する要綱」の規制内容を強化する条例案について規制強化に賛成。</p>	1	<p>白馬村が示しました条例案の骨子は太陽光発電施設の事業区域や周辺地域における災害の防止、良好な景観及び生活環境の保全を図ることによって村民の安全で安心な生活を確保することですが、太陽光発電設備の規制に向けた異なる視点からのご意見として他業務を含めて参考とさせていただきます。</p>
2	<p>村内の殆どの場所で野立ての10kw以上の太陽光発電設備の設置ができないのは、厳しいと感じます。</p> <p>太陽光発電設備の設置に伴う景観への影響、資源循環の促進、2050年に向けた温室効果ガス削減目標の達成に向けて総合的な議論がされたのか見えてこないのではと不安に感じます。</p>	<p>村内ほとんどの箇所で10kw以上の太陽光発電施設設置を規制することは厳しすぎるのではないかと。 温室効果ガス削減目標の達成に向けて総合的な議論がされたのか。</p>	2	<p>現行の「白馬村太陽光発電設備の設置管理等に関する要綱」が10kw以上の施設設置で届出を求める制度設計となっておりますことから、今回の条例案では「規制強化」という設計意図から現行の要綱における考え方を引き継ぎ、許可の下限を10kw以上と設定しました。</p> <p>また、「白馬村ゼロカーボンビジョン」において掲げる2050年二酸化炭素実質排出量ゼロに向けては太陽光発電だけではなく他の再生可能エネルギーも活用しながら住宅外皮性能をはじめとした省エネルギー技術の利用といったプラスマイナスを複合的に組み合わせる必要があります。もちろん将来的な技術革新といった事柄についても制度運用の対応が求められることから、中長期的な視点で柔軟な運用を目指します。</p>
	<p>昨年、建物の開発についての規制は、地域で独自で地区計画などを利用して行うと指導されました。 今回10kw以上という、比較的小規模な太陽光発電設備も含まれる設置に伴う規制を、村の条例で対応しようとしていますが。 この2つの対応の違いの理由を教えてください</p>	<p>太陽光発電施設の設置について村が独自の条例規制を行おうとする事理由について。</p>	3	<p>都市計画法における地区計画制度の制度概念はそれぞれの地域の特性にふさわしい態様を備えた良好な環境の各街区を整備し、開発し、及び保全するものです。これは白馬村内の建物態様や用途が集落や地域ごとに大きく異なるため白馬村一円での統一的な誘導、規制は好ましくないと考えることから地区計画といった制度の活用を推奨しております。</p> <p>一方で太陽光発電施設の建設は白馬村のどこに築造されてもほぼ同じ態様となり、それが事業区域や周辺地域に災害の可能性を助長し、良好な景観及び生活環境の保全が損なわれる可能性を有することから全村的な規制に向けた条例の制定を検討いたしました。</p>